

鈴木 雄雅先生

上智大学新聞学科卒、上智大学大学院文学研究科博士課程(新聞学専攻)単位取得満期退学。公立中学校で社会科を非常勤で教える。日本新聞協会研究所勤務。

Q1.なぜ新聞学科に入学されたのですか？

「ラジオが好きでラジオの仕事がしたかったからだね。入学当時は大学紛争後で火災ピンが飛んでいた。上智は日本ではじめて機動隊を入れ学生をシャットアウトした大学なんだよね。ずっとヘルパーをやっている毎年オリキャンに行っていた。当時は院生がヘルパーをやっていたのだよ。なぜかって大学紛争があって、大学生がやってしまうと、弊害がでるって大学側が懸念して。」

Q2.どうしてオーストラリア研究をしようと思ったのですか？

「修士論文を書いているときにでてきたテーマがオーストラリアに関することだったからだよ。オーストラリアに行こうと思ったのは、僕の先生(小糸忠吾教授・元共同通信社)の助言もあってね」

Q3.学生時代何かアルバイトをしていましたか？

「家庭教師と、三越のお中元配達のアルバイトをしていたな。サークルには入ってなかった。でもサークルに学生が入るのには賛成するね。要はどう時間を使うかだよ」

Q4.先生は授業でパソコンをツールとして使っていますね。それについて何かお願いします。

「課せられて、それを克服して身につけることに意味がある。将来の役に立つ。だからホームページがうまく作れたなどの技術に関することは別のレベルの問題。そしてパソコンだけに染

まるのは危険なことだと思う。ネチズンとして正しい使い方を学ぶことが重要。パソコンがわからない友達に教えたりするコミュニケーションも大切だと思う。ただ、授業外授業みたいな負担になることが多いからね」

Q5.先生のゼミでは幅広いテーマを扱っていらっしゃるようですが。

「そうなんだよ。僕もそれでちょっと困っちゃってるんだよね(苦笑)。10人が10人、違うことをしているのでそれをある程度まとめなくてはいけないのね。テーマ決めや発表などを含め、ゼミを通して基本的な自分の立場を学ぶものなんだよ、ゼミは。学生諸君の優秀さによって毎年少しゼミの内容が変わっていくんだ。強制するのではなく、自分で目標を定めて到達しようとする場がゼミであると思う」

Q6.趣味は何ですか？

「18時からのプール(学校の)だね。ただ、プールに行くまでに学生につかまっちゃうんだよね。7号館からのあの短い距離の間に(笑)。あとはスキー、ゴルフ、オートバイ。オートバイは四国や北海道をはいたり、シドニー・メルボルン間往復などもした。あとは旅行。ワイフを連れて。やっぱりオーストラリアが多いね」

Q7. 新入生に一言お願いします。

「そうだね...どんなものがいいの?長いものとか、まとまりがあるもの、とか」
しでとさん「じゃあ、短いもので」
「4年後にくだらない学生生活を送るように。自分は何をやったのかがわかるように」

インタビュー:しでと・れいな